

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 へき地医師研修支援補助金 (地域医療介護総合確保基金)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係 電話番号：058-272-1111(内3278)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,013 千円 (前年度予算額： 1,013 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,013	0	0	0	0	0	1,013	0	0
要求額	1,013	0	0	0	0	0	1,013	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

現在、へき地において、1人診療所などに勤務する医師には、専門医資格を取得することができなかったり、最新の医療技術に接する機会が持てない等の理由により、自身のキャリアプランに不安を抱くものも多い。

こうした課題に対し、へき地医療に従事していても、希望する専門分野の最新の医療技術を習得する機会を得られるようにすることで、へき地で勤務する医師のモチベーションを高め、さらには、へき地で勤務する医師の定着、確保を図る。

(2) 事業内容

へき地医療機関に勤務する医師の医療技術習得を支援するため、市町村立へき地医療機関に勤務する医師の研修の実施(医学研究、学会出席及び研修受講等)に必要な経費を負担する市町村に対し、補助を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率 2 / 3

※「地域医療介護総合確保基金」を活用

(4) 類似事業の有無

類似事業なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,013	市町村立へき地医療機関に勤務する医師の研修の実施（医学研究、学会出席及び研修受講等）に必要な経費を支出する市町村に対する補助金。
合計	1,013	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県保健医療計画（第8期）

第3部第2章 医療提供体制の構築

第9節 へき地医療対策

(2) 後年度の財政負担

へき地医療体制の安定的な運営の為、引き続き、支援していく必要がある。

(3) 事業主体及びその妥当性

へき地医療提供体制の確保は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべきものであること、また、保健医療計画上も、へき地保健医療の普及と啓発を明記していることから、事業主体が県であることは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
研修を受けたへき地診療所の医師数を増やす。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R26)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①研修を受けた へき地診療所の 医師数	0	8	8	18	18	39%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	2市に対し補助を行い、6人の医師が研修を行った。へき地医療機関で働く医師が、へき地医療に従事しながらキャリアアップを行うことが可能となることにより、医師のモチベーションが向上し、へき地の医師定着につながった。
	指標① 目標：18人 実績：6人 達成率：33%
令和5年度	2市1村に対し補助を行い、7人の医師が研修を行った。へき地医療機関で働く医師が、へき地医療に従事しながらキャリアアップを行うことが可能となることにより、医師のモチベーションが向上し、へき地の医師定着につながった。
	指標① 目標：18人 実績：7人 達成率：39%
令和6年度	3市1村に対し補助を行い、8人の医師が研修を行った。へき地医療機関で働く医師が、へき地医療に従事しながらキャリアアップを行うことが可能となることにより、医師のモチベーションが向上し、へき地の医師定着につながった。
	指標① 目標：18人 実績：8人 達成率：44%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	へき地医療提供体制の確保は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべき課題である。また、本事業は、へき地で勤務する医師の定着を図るための取り組みであり、県の関与は妥当。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研修を受けた医師数が事業開始前件数より増加しており、成果が徐々にあがってきている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	県が自ら研修会等を開催して一律の指導を行うのではなく、医師がそれぞれの関心に応じて研修等を受講する際の経費に対して補助を行うことにより、医師一人ひとりに合ったキャリアアップを安価に支援することができ、効率性が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 研修等で医師が診療所等を不在にする場合の代診医師等の確保が課題。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか へき地で勤務する医師の定着を図るための取り組みであり、継続的に支援を行う

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など	
--	--